

山形市中心市街地（文翔館前）におけるまちなか賑わいの取組み

令和6年6月17日
県土整備部

- 文翔館周辺において、既存の道路空間等を活用し、賑わいや多様な交流を創出する空間形成について検討する。
- 令和6年度は、県・市の若手職員によるワーキングチームを中心にワークショップや社会実験等を行い、基本構想案を取りまとめる。

【令和6年度の取組み】

1 ワークショップの開催・運営

- (1) まちなか賑わい空間形成の方針や具体的な施策（将来像）等について、様々な立場の住民から幅広い意見をいただきながら、基本構想案に反映することを目的とする。
- (2) ワークショップの対象者は住民（学生）や関係団体（沿線企業、文化施設、商工会議所等）を想定。
- (3) 課題やアイデアを出し合い、賑わい空間形成の方針等について議論を行う。（4回予定）
- (4) 開催に当たっては、VR画像を活用し、社会実験の実施結果を反映しながら進めていく。

ワークショップのテーマ案

課題・ニーズの抽出、コンセプト案の作成、賑わい空間のイメージ作成、VRによる将来像の体験等を想定

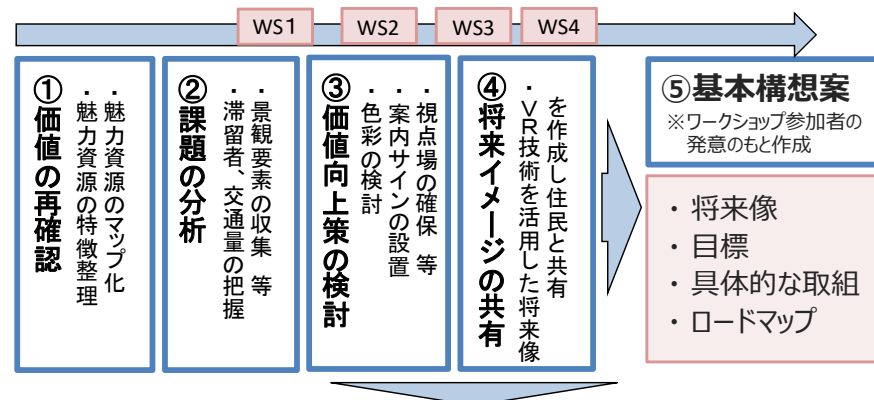
↑ 反映・活用

2 VR画像の作成

- (1) 既存のデータ（航空写真、都市計画基本図、県道の3次データ等）を活用。
- (2) 文翔館等のランドマークの再現性を高めるため、ランドマークを対象としたレーザー計測を実施し点群データを取得。
- (3) はじめに簡易なVR画像を作成し、随時アップデート。
- (4) ワークショップでは、画像再生ツールとして、VRゴーグル、PCを使用。

3 社会実験の実施 ※10月実施予定

- (1) 文翔館前の県道(旧県庁半郷線)の南進車線(L=235m)を閉鎖し、ベンチ、テーブル等滞在用施設を設置。
- (2) 上記県道規制による交通への影響や滞在空間の創出効果を分析。
- (3) 交通への影響は、ビデオカメラ調査やETC2.0を利用した周辺道路の渋滞状況の影響分析等により検討。
- (4) 滞在空間の創出効果はGPSデータ等による人流データ等を活用し検討。



【令和7年度(予定)】

- 今年度のワークショップ、VR画像の作成、社会実験の検討結果を踏まえ、
- ① 期間やエリア、内容を拡大、見直した社会実験の実施
 - ② VR画像の更新及び精度向上
 - ③ まちづくり参画への機運醸成に重きを置いたワークショップの開催を検討する。

